

資料編

開館以来の入館者数の推移



中央博物館が開館した昭和63年度から平成29年度までの本館（緑）および分館海の博物館（「海博」、青）、大根分館（「大根」、黄）、大喜分館（「大喜」、赤）の各館の年間入館者数および開館以来の通算入館者数（折線）の推移。分館海の博物館は平成10年度に開館、大多喜分館および大根分館はいずれも平成18年度に中央博物館の分館となった。なお、大根分館では、10月から3月までの間は、予約団体のみの見学としている。

資料の収集（平成 20～29 年度）

平成 20～29(2008-2017)年度に、収集（寄贈、保管換え、交換、館員による収集）した資料、及びこの期間に寄託、仮保管、長期借用を行った資料について、一覧を掲載します。

寄託、仮保管、長期借用は、最終年度の点数を記載しました。大根分館、大多喜城分館の寄託、仮保管は、開始年度が 17 年度以前の場合でも、中央博物館に統合された 18 年度としました。

1 本館

(1) 寄贈

動物資料

年度	資料名
22	イシサンゴ類標本 1 点（個人）
23	ゴシキエビ剥製、タイマイ剥製 2 点（個人）
〃	貝類コレクション 758 点（個人）
24	ニシキエビ剥製 1 点（個人）
〃	モンゴル産タイリクオオカミ全身毛皮 1 点（個人）
25	石井正氏蝶類コレクション 925 点（個人）
〃	貝類コレクション 954 点（個人）
26	ウミガメ（タイマイ）剥製 1 点（個人）
27	タイマイ剥製 1 点（個人）
〃	ユーラシアカワウソ毛皮ほか 4 点（個人）
〃	ワモンチョウコレクション 1,912 点（個人）
〃	ノスリ剥製、キジ科雑種剥製、タヌキ剥製 3 点（個人）
〃	ココノオビアルマジロ剥製、タイマイ剥製 2 点（個人）
〃	タイマイ剥製 1 点（個人）
28	哺乳類標本 27 点（個人）
29	タイマイ剥製 1 点（個人）

年度	資料名
〃	ムカシマンモスゾウ臼歯化石、クジラ脊椎骨化石 2 点（個人）
〃	ナウマンゾウ顎骨化石、ナウマンゾウ肋骨化石、石灰質ノジュール 4 点（個人）
24	岩石標本 11 点（個人）
26	柏市布瀬産木下層ザトウクジラ化石および共産化石 1 点（個人）
〃	富津市磯根崎産セイウチ吻部頭骨化石 1 点（個人）
〃	市原市引田産ニホンムカシジカ骨格および共産化石 1 点（個人）
27	千葉県多古町並木産出のナウマンゾウ臼歯化石及びクジラ類肋骨化石（個人）
〃	千葉県銚子市長崎鼻の海生哺乳類化石 464 点（個人）
28	千葉県産第四紀貝類ほかの化石コレクション 4828 点（個人）
29	秋田県尾去沢鉱山鉱物標本 14 点（個人）
〃	別子鉱山鉱石ほか一式 (57 件) 71 点（個人）
〃	兵庫県豊岡市赤石地域産玄武岩標本 1 点（山陰海岸ジオパーク推進協議会）
〃	富津市磯根崎産脊椎動物化石 9 点（個人）

植物・菌類資料

年度	資料名
21	加藤亮明採集植物標本 一式（個人）
27	さく葉標本 149 点（個人）
〃	さく葉標本 440 点（行徳野鳥観察舎）
〃	さく葉標本 321 点（我孫子市）

地学資料

年度	資料名
20	千畑層産サメの歯化石ほか 817 点（個人）
〃	久保田層産真珠化石 1 点（個人）
〃	瀬戸内海産脊椎動物化石 7 点（個人）
21	日本産鉱物標本 一式（個人）
〃	古生代および中生代無脊椎動物化石、植物化石 33 点（個人）
22	地学関係雑誌・図書 91 点（個人）
〃	鋸南町千畑層産サメ類等化石 2,510 点（個人）
〃	鋸南町千畑層産サメ類等化石 2,739 点（個人）
〃	イノシシ頭骨化石 1 点（個人）
23	千葉県および国内各地からの化石コレクション 1,115 点（個人）

生態・環境資料

年度	資料名
22	木積の箕づくりにかかわる道具・材料 26 点（個人）
〃	金田忍生物音声録音コレクション 約 300 点（個人）
24	射場崇男 CD コレクション 5 点（個人）
〃	小山勇 鳥の音声コレクション 298 点（個人）
〃	田辺至 録音コレクション 4 点（個人）
〃	長谷川博 コレクション 3 点（個人）
〃	海上の森サウンドマップ関連資料 8 点（個人）
〃	平野の音博物館 1 点（個人）
〃	峯岸典雄 生物音声コレクションの追加・補足（軽井沢の野鳥と環境録音 峯岸コレクション） 3 点（個人）
〃	自然の中に生きる音 1 点（県立鎌ヶ谷高等学校）
〃	稲干しのすがた撮影写真 92 点（個人）
26	峯岸典雄 生物音声コレクションの追加補完資料 6 点（個人）
〃	浦安町の風景写真 7 点（個人）
〃	林辰雄氏が撮影に使用していたカメラ 6 点（個人）

年度	資料名
27	「峯岸典雄生物音声コレクション（軽井沢の野鳥と環境録音峯岸コレクション）」追加補充資料 3点（個人）

歴史資料

年度	資料名
20	シールドマシンカッタービット 2点（個人）
22	篠崎四郎関係資料 一式（個人）
〃	香取秀真の鍔金落款 1点（個人）
〃	江戸風俗図屏風（複製） 6曲1双（NPO法人京都文化協会）
23	兵法虎巻号魔除守（一天流剣術・真妙流柔術伝書） 1点（個人）
25	関家旧蔵和漢書及び医書 347点（個人）
27	図解量地指南 前編 上・中・下 3点（個人）
〃	阿波大杉大明神御神軸 1点（個人）
〃	チラシ（支那事変貯蓄債券・報国債券売出案内）ほか 6点（個人）
〃	寛永通寶ほか 33点（個人）
〃	日本銀行兌換券・拾圓 1点（個人）
28	明治九年改正地券ほか 2点（個人）
〃	菱田忠義コレクション：絵葉書一式（個人）
〃	菱田忠義コレクション：観光チラシ等一式（個人）
〃	菱田忠義コレクション：国体関係資料一式（若潮国体関係資料）（個人）
29	封筒（発：君津郡中村農地委員会 宛：□□□□□） 1点（個人）
〃	腕章（表：勤労学徒 千葉師範学校.2） 1点（個人）

特殊資料・貴重書

年度	資料名
25	森啓蔵書 153点（個人）

図書資料

年度	資料名
28	菱田忠義コレクション：図書一式 1点（個人）

(2) 保管換え

動物資料

年度	資料名
21	三番瀬毎生生物現況調査に係る魚類標本 サンプルビン166本（環境生活部自然保護課）

地学資料

年度	資料名
20	オキゴンドウ頭骨化石ほか 3点（県立安房博物館）

歴史資料

年度	資料名
20	県指定無形文化財映像記録資料 26点（教育庁教育振興部文化財課（県立上総博物館））
〃	成田市宝田八丁目貝塚出土遺物・記録類 一括（千葉県史料研究財団）

年度	資料名
〃	千葉県史編さん考古部会関係資料 一括（千葉県史料研究財団）
〃	千葉県文化財実態調査事業絵馬・奉納額・建築彫刻資料 74点ほか（教育庁教育振興部文化財課（県立上総博物館））
〃	千葉県石造文化財実態調査カード 14,063枚（教育庁教育振興部文化財課（県立上総博物館））
〃	館山市鉾切洞窟出土動物遺存体 58点（県立安房博物館） ※当初50点を再整理
21	葛飾北斎作 千絵の海シリーズより「蚊針流」「甲州火振」「待子網」「絹川はちふせ」4点（県立上総博物館）
〃	千葉県文化財実態調査事業 歴史の道調査 調査カード1,102枚 写真（スリーブ）922連（教育庁教育振興部文化財課）
28	名所案内 最新鉄道図 附名所登山案内図 附大都市電車図ほか 2点（旧県立上総博物館・昭和62年度保管換え資料の再整理）

図書資料

年度	資料名
28	図書 146冊（県立中央図書館）

(3) 交換

植物・菌類資料

年度	資料名
20	維管束植物標本 41点（岡山理科大学）
21	維管束植物標本 720点（中国科学院北京植物研究所）
〃	維管束植物標本 200点（台湾国立自然科学博物館）

(4) 館員による収集

年度	資料名
20-29	動物資料 66,065点
〃	植物・菌類資料 149,701点
〃	地学資料 16,477点
〃	生態・環境資料 4,238点
〃	歴史資料 53点

(5) 寄託

年度	資料名
16～	九十九里町いわし博物館所蔵資料（伊能忠敬書簡ほか） 20点（九十九里町）
19～	大絵馬会津藩土遊泳 1点、木造菩薩半伽像 1点（三柱神社）
〃	鍔鐘鑼口 1点、鍔銅孔雀文磬 1点、鍔銅唐草文釣灯籠 1点（笠森寺）
〃	板絵馬著色武者絵（弁慶） 1点、板絵馬著色武者絵（牛若） 1点（縣神社）
20～	地引網絵馬 4点、揚繰網絵馬 1点（玉前神社）
29～	板絵馬著色武者絵（昇亭北寿 文久二年） 1点、板絵馬著色伊勢参宮図（〃） 1点（大宮神社）

(6) 仮保管

歴史資料

年度	資料名
14～	千葉寺経塚出土遺物 10点 (県立千葉高等学校)

(7) 長期借用

動物資料・植物資料 (生物展示室)

年度	資料名
3～	漂着物 33点 (個人)

地学資料 (地学展示室)

年度	資料名
S63-20	オキゴンドウ頭骨化石ほか 3点 (県立安房博物館)
1-22	ナウマンゾウ顎骨化石 4点 (個人)
1-22	トロゴンテリゾウ臼歯化石 2点 (個人)
1-29	石筍ほか 2点 (個人)
1～	サンゴ岩体化石 1点 (とみうら元気倶楽部)
1～	ナウマンゾウ臼歯化石ほか 23点 (個人)
1～	ナウマンゾウ臼歯化石 1点 (個人)
1～	銚子産化石・岩石 105点 (個人)
1～	馬蹄石 1点 (個人)
1～	ニホンジカ角化石 2点 (木更津市立中郷小学校)
21～	山岳鳥瞰図 408点 (個人)

歴史資料 (歴史展示室)

年度	資料名
S63～	姥山貝塚出土縄文土器 9点 (慶應義塾大学)
〃	城の腰遺跡出土石器ほか 95点 (県立房総のむら)
〃	農業要集・草木撰種録ほか 3点 (個人)
〃	西広貝塚出土石剣ほか 17点 (市原市教育委員会)
〃	三田遺跡出土赤彩土器ほか 40点 (芝山町教育委員会)
〃	山田水呑遺跡出土墨書土器ほか 24点 (東金市教育委員会)
〃	鳥浜貝塚出土クルミほか 11点 (福井県立若狭民俗資料館)
1～	中山新田 I 遺跡出土石器ほか 547点 (千葉県教育委員会)
2～	地租改正の丈量器具 一式点 (富津市文化協会)
3～	村明細帳・年貢割付状 2点 (個人)
13～	林跡遺跡出土隆起線土器 8点 (鎌ヶ谷市教育委員会)
16-26	下向山遺跡出土土器ほか 4点 (袖ヶ浦市教育委員会)
16～	四留作第1号墳出土鋤先ほか 35点 (木更津市教育委員会)

年度	資料名
〃	本名輪遺跡出土炭化米 一式点 (君津市教育委員会)
〃	新坂1号墳出土土頭大刀ほか 60点 (山武市教育委員会)
18～	下ヶ戸宮前貝塚出土骨角製刺突具 7点 (我孫子市教育委員会)
21-24	古文書 831点、古文書の容器 4点 835点 (個人)
22-27	内野第1遺跡出土土偶 2点 (千葉市教育委員会)
22～	飯山満東遺跡出土浅鉢 5点 (国立歴史民俗博物館)
〃	宮内井戸作遺跡出土深鉢 13点 (佐倉市教育委員会)
23～	鉄帽ほか 18点 (印西市立印旛歴史民俗資料館)
〃	職工人夫心得ほか 4点 (個人)
24～	石毛嘉左衛門家文書 1525点 (個人)
26-27	『ニューライフ千葉』7号ほか 27点 (個人)

2 大根分館

(1) 寄贈

年度	資料名
20	香取市仁井宿十三塚出土石枕 1点
21	ウナギガマ 4点 (個人)
25	古文書・造船関係用具他 一式 (個人)
29	奈良屋軒丸瓦 1点 (個人)

(2) 館員による収集

年度	資料名
28	利根川下流域の犬卒塔婆 13点

(3) 寄託

年度	資料名
18-24	古文書・造船関係用具他 244点 (個人) ※寄贈
〃	船大工道具・船模型 73点 (九十九里町) ※返却
18～	ナウマンゾウ・クジラの化石 2点 (成田市教育委員会)
〃	下小野区有文書 2,248点 (下小野区)
〃	三区用水関係文書 20点 (三区)
〃	山来家文書 2,127点 (個人)
〃	寺田家文学資料 447点 (個人)
〃	寺内区有文書 15点 (寺内区)
〃	柴田家蔵書 119点 (個人)
〃	十六島図 1点 (香北土地改良区)
〃	神宮寺文書 540点 (神宮寺)
〃	神崎神社文書 91点 (神崎神社)
〃	船板図 20点 (個人)
〃	鶴崎区古文書 34点 (鶴崎区)

年度	資料名
〃	鈴木家文書 167点 (個人)
27～	涅槃図 1点 (大貫山興福寺)

(4) 長期借用

年度	資料名
18～	黒田家文書 8点 (個人)
〃	板碑 2点 (惣持院)
〃	板碑 1点 (個人)
〃	丸木舟 1点 (匝瑳市教育委員会)
〃	木造阿彌陀如来坐像 1点 (西福寺)
〃	阿玉台北遺跡出土土器・炭化米・石製浮子・石錘・土器片錘 17点 (県立房総のむら指定管理者(公財)千葉県教育振興財団)
〃	馬場遺跡・東野遺跡・多田遺跡・鶴崎貝塚・取香和田戸遺跡出土遺物 74点 (千葉県教育委員会)
〃	城山第5号前方後円墳出土人物埴輪・大六天遺跡・織幡ササノ倉遺跡出土土器・プロペラ・河童図 42点 (香取市教育委員会)
24～	翼竜復元模型・トンボ化石・始祖鳥化石(レプリカ) 3点 (航空科学博物館)

3 大多喜城分館

(1) 寄贈

年度	資料名
21	天田昭次作 刀1口 (個人)
〃	前装管打古式銃 1丁 (個人)
〃	回転式拳銃 1丁 (個人)
22	御貸具足 1点 (個人)
〃	布袋図三幅対・模造刀・等身大甲冑 8点 (個人)
〃	官軍進軍布告分・官軍進軍制札・火縄銃 3点 (個人)
〃	紺糸威桶側胴具足(越中形兜付)・成田山御供米箱 3点 (個人)
25	井上家系図 1点 (個人)
28	短刀 1点 (個人)
〃	槍 1点 (個人)
〃	刀、脇差 2点 (個人)
〃	脇指(相州住綱広) 1点 (個人)
〃	鶴岡家蔵書ほか 4点 (個人)
〃	脇差 1点 (個人)
〃	大曾根家銃砲・刀剣コレクション 8点 (個人)
〃	難波戦記ほか古書籍コレクション 54点 (個人)
〃	槍 2点 (個人)
〃	脇差 1点 (個人)
〃	刀剣類 55点 (個人)
29	脇差 1点 (個人)
〃	家系図 1点 (個人)
〃	具足 1点 (個人)

年度	資料名
〃	軍扇 1点 (個人)
〃	軍配 2点 (個人)
〃	鎖鎌 1点 (個人)
〃	ウーガ 1点 (個人)
〃	ウーガ木型 5点 (個人)
〃	焼印 1点 (個人)

(2) 寄託

年度	資料名
18-23	古文書ほか 21点 (個人) ※返却
18-24	書画 8点 (個人) ※返却
〃	陣笠 1点 (個人) ※返却
〃	刀剣 1点 (個人) ※寄贈
〃	三つ葉葵紋軒瓦ほか 2点 (個人) ※返却
18-26	長持、小袖ほか 4点 (個人) ※返却
18-27	刀剣 1点 (個人) ※寄贈
18～	袴 など 23点 (個人)
〃	木造薬師如来坐像 など 2点 (青龍寺)
〃	上総国伊北荘山中郷御繩打水帳 など 10点 (堀之内区)
〃	絵馬 など 6点 (広瀬院観音堂)
〃	善光寺参詣絵馬 など 3点 (清水寺)
〃	奉納額 など 3点 (船子八幡神社)
〃	西畑の内平沢村坪入改帳 など 6点 (妙厳寺)
〃	大多喜城残置武具覚 など 136点 (個人)
〃	脇差(豊永行秀鍛之) など 2点 (個人)
〃	紺糸威桶側胴具足(覆輪兜付) など 2点 (個人)
〃	沢瀉紋銭紋散刀筒 など 3点 (個人)
〃	芝居絵 1点 (個人)
〃	額(熊野神社遷宮額) 1点 (小佐部区長)
〃	短刀(関住兼氏) など 2点 (個人)
〃	木札 など 4点 (個人)
〃	槍(銘 藤原国重作) 1点 (個人)
〃	総房軍記・全 など 20点 (個人)
〃	中瀧城跡出土遺物 1点 (立教大学考古学研究会中瀧城址調査団)
〃	新堀区有文書 1点 (新堀町会)
〃	房総志料 など 2点 (個人)
〃	紺糸威伊予札二枚胴具足 など 6点 (個人)
〃	刀(平安城住大隅守平広光) など 12点 (個人)
〃	古文書 など 3点 (個人)
〃	刀(無銘) など 9点 (個人)

年度	資料名
"	百万遍講中道具 など 2点 (個人)
"	鎧通し など 13点 (個人)
"	松平正和書 1点 (個人)
"	四季豊年図 1点 (個人)
"	刀 (人見神社御神刀・長旨作) 1点 (人見神社)
"	太刀 (波平吉安) など 3点 (個人)
"	葉箆笥 など 8点 (個人)
"	蒋介石絵統扁額 など 2点 (個人)
"	袴 2点 (個人)
"	俳句帳 など 20点 (個人)
"	短刀 (正直) 1点 (個人)
"	銭箱 1点 (個人)
"	段替胴腰取具足(日根野頭形兜付) 1点 (個人)
"	紫糸威連山頭桶側胴具足(桃形兜付) など 2点 (個人)
"	樋口一葉書翰 など 14点 (個人)
"	陣笠 1点 (尾高 善太郎善彦)
"	三ツ葉葵紋付宇瓦 1点 (紺屋区観音寺)
"	木造大日如来坐像 など 9点 (猿稲区)
"	大多喜御在城私宅江殿様入れられ候節の覚書 など 7点 (個人)
"	紺糸威仏胴具足(小星兜付) など 316点 (大多喜町長)
"	紺糸菱綴桶側胴具足(覆輪筋兜付) など 5点 (神明神社)
"	色々威腹巻(筋兜付) など 38点 (玉前神社)
"	古文書 など 3点 (個人)
"	染付土瓶 など 6点 (個人)
"	白磁製マリア観音像 1点 (下大多喜台区)
"	木造僧形坐像 (院廣 銘) など 48点 (応徳寺)
"	短刀 (氏貞・白鞘入り) など 2点 (個人)
"	古書籍 など 2点 (個人)
"	光福寺八代華徳院日妙曼荼羅 1点 (個人)
"	松平家紋所付御膳 など 20点 (圓照寺)
"	刀 (無銘) など 10点 (薬王寺)
"	刀 2点 (白子神社)
"	太刀 (大和國住包永) 1点 (個人)
"	遠山金四郎景元公肖像画 など 2点 (遠山講)
"	大河内正質寄贈掛時計 など 2点 (大多喜町立大多喜小学校長)
"	万祝 (鶴亀) など 27点 (九十九里町長)

年度	資料名
20～	熊野観心十界図 1点 (宝聚院)
21-27	伝日蓮消息断簡 1幅・呉道子像 1体 (個人) ※返却
22～	刀 など 2点 (個人)
22-23	近世肉筆画、甲冑 3点 (個人) ※返却
26～	大河内信敬油絵 など 2点 (八幡神社)
27～	家系図 など 4点 (個人)

(3) 長期借用

年度	資料名
18-22	官軍布告、官軍制札 2点 (個人) ※寄贈
18-29	火縄銃 など 2点 (個人) ※返却
18～	松平正質筆驚図 など 6点 (個人)
"	梅僊筆 梅図掛図 など 14点 (個人)
"	紙本着色本多忠勝画像など 3点 (宗教法人 良玄寺)
"	屏風 など 6点 (個人)
"	キリシタン禁制 など 2点 (個人)
"	萌黄糸威素懸二枚胴具足 (小星兜付) 1点 (個人)
"	黒糸肩裾取威胴丸(兜・小具足付) など 3点 (個人)
"	国吉原新田掟書 など 2点 (個人)
"	鰐口 1点 (宗教法人 法華寺)
"	火縄銃 など 2点 (個人)
"	鉄砲所持許可鑑札 など 3点 (個人)
"	紺糸威鉾綴桶側胴具足(十六間筋兜付) 1点 (個人)
"	朽葉糸威素懸胴具足(頭形兜付) など 11点 (個人)
"	本多家御膳 など 10点 (宗教法人 東長寺)
"	鋸鍛冶道具 1点 (個人)

4 分館海の博物館

(1) 寄贈

年度	資料名
23	アオウミガメ剥製 1点 (個人)
29	ニシキエビ剥製標本、ゴシキエビ剥製標本、ウチダザリガニ剥製標本、スポットシュリンプ剥製標本 4点 (海と日本PROJECT2017 事業千葉ユニット代表)

(2) 館員による収集

年度	資料名
20-29	植物資料 1,570点
"	動物資料 11,067点
"	映像資料 761点
"	図書資料 222点

職員・組織（平成 11～30 年度）

平成 11～30(1999-2018)年度に本館、分館に所属した職員（館長、副館長、分館海の博物館分館長、部長、庶務課・事務職員、研究職員、嘱託職員）を掲載します。「2 職員」「3 嘱託職員」については五十音順としました。なお、20 周年記念誌には歴代職員の掲載がなかったため、この期間の在籍職員についても合わせて掲載します。平成元～10 年度は、「10 年の歩み」を御参照ください。

1 歴代館長、副館長、分館長、部長

(1) 館長・副館長・分館長・部長

年度	館長	副館長	副館長	副館長	分館 海の博物館 分館長	庶務部長	自然誌・歴史 研究部長	生態・環境 研究部長
11	千原 光雄	飯田 浩二	中池 敏之		望月 賢二	佐久間 勉	堀江 義一	中村 俊彦
12	〃	山本 文夫	〃		〃	鈴木 勲	〃	〃
13	〃	〃	〃	望月 賢二	堀江 義一	〃	望月賢二 *1	〃
14	〃	鈴木道之助	〃	〃	〃	尾高 恒男	〃	〃
15	中村 哲		〃	〃	〃	〃	〃	〃
16	〃	三森 俊彦		〃	〃	箕輪 健二	〃	〃
17	〃	〃	中村 俊彦		〃	〃	清藤 一順	中村俊彦 *1
18	〃	〃	〃		〃	茂木 純雄	〃	〃
19	佐久間 豊	〃	〃		布留川 毅	〃	〃	〃
20	〃	斎木 勝	〃		〃	及川 信	宮田 昌彦	〃
21	〃	〃	〃		宮田 昌彦	小野高栄一	宮野 伸也	原 正利
22	嘉村 茂邦	藤崎 芳樹	〃		〃	〃	〃	〃
23	上野 純司	〃	〃		〃	村川 正二	〃	〃
24	〃	平野 久朗	〃		〃	〃	〃	〃
25	堀田 弘文	〃	〃		原 正利	関 登志彦	〃	落合 啓二
26	川戸 功一	平野久朗 *2	〃	鎌田 操	原 正利 *3	佐々木規夫	新 和宏	大野 啓一
27	〃	平野 久朗	萩原 恭一		大野 啓一	仲野 純枝	〃	森田 利仁
28	中村 祥一	澁谷 重明	〃	内藤 正寿	新 和宏	田中 文昭	森田 利仁	宮 正樹
29	鎌田 操	明田 成一	大野 康男	〃	〃	神 かほる	古木 達郎	〃
30	萩原 恭一	林 輝彦		〃	〃	大堀 昭一	斉藤 明子	〃

*1 副館長が部長を兼務、 *2 1月から3月末まで分館海の博物館勤務、 *3 1月から生態・環境研究部勤務

(2) 名誉館長

年度	氏名
11-14	沼田 眞

2 職員

(1) 庶務課・事務職員（本館、分館） 表内の略号（所属館）は本表末を参照

氏名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
粟飯原 勉	本	本																		
青木 要							本	本												
安藤 三之	海																			
石田 正和								海	海	海										
市川 和代		本	本	本	本															
伊東 亜希子																				本
稲村 弥			本	本	本	本														
植草 さち江														本	本					
宇野澤 正義												本	本	本	本					
大石 岳															海	本	本			
大木 孔男				本																
大木 美和子						教	教													
沖村 仁									海	海	海									
小野 晴彦	本	本																		
霞 有理				本	本	本	本	本	本									本	本	本
金井 一喜					本	本														
河名 千恵美															本	本				
吉瀬 英子												本	本							
北田 美枝		海	海	海																
北村 規彦	本	本																		
黒川 浩一		本	本																	
小泉 亜希										本	本									
小出 さゆり																	本	本	本	本
小安 祐一												海	海	海						
近藤 佳純				海	海	海	海	海								海	海	海	海	
斉藤 美津子	本	本																		
酒井 孝子								城	城	城	城	城	城							
櫻井 比呂志																		海		
佐藤 久美子												本	本	本	本	本	本	本	本	本
三平 晃子			海	海	海	海	海													
鈴木 徳美	海	海																		
高木 慎哉															海	海	海	海	海	海
高木 道幸																			利	利
高宮 京子										本	本	本	本							
武田 知子	本	本	本																	
千田 佳輝																		本	本	
所 甚一																				海
中村 英美															城	本	本	城	城	
檜葉 一夫											海	海								
萩原 文雄	本																			
橋本 香緒里	海	海	海						本	本	本									
長谷 久夫							本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
平野 収									本	本										
福田 祥子																本	本			
本名 和博			本	本																

氏名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
松田 正										教											
松森 貴史																				本	
的場 秀人													海	海							
丸 美由紀																城	城	城			
丸山 茂喜																		本	本	海	
丸山 朋子			本	本	本	本	本	本													
三橋 一文	本																				
森川 文恵																				城	城
山口 正男			本	本	本	本															
吉村 和子					海	海	海														
吉村 健平																				本	
渡邊 昭代					本	本															

本：本館、 利：大利根分館、 城：大多喜城分館、 海：分館海の博物館、 教：本館教育普及課

(2) 研究職員（本館、分館） 表内の略号（所属課科）は本表末を参照

氏名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
相川 順子																	教	教	教	
藍澤 正宏	海	海	海	海	海	海	海	海												
青木 慎哉													海	海	海					
秋元(西江)悦子	歴																			
秋山 笑子															教	教			利	利
浅井 秀彦							か	か	か	教	教									
朝倉 彰	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動									
浅田 正彦	生	生	生	生	生	生	生	生	生	七	七	七	七	七	七					
天野 誠	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植
阿由葉 司	教	教	教	教	教	教														
安齋 信人											教	教	教							
伊左治 鎮司	地	地	地	地	地	地	地	地	地	教	教	地	地	地	地	企	企	企	地	地
石渡 克彦												教	教	教	教					
一場 郁夫													教	教	教	教	教	城		
糸原 清				教	教	教	教													
上野 純司													長	長						
牛島 薫			環	環	環+教	環														
内田 龍哉	歴	資	資										利	利	歴	歴	歴	歴	歴	教
江口 誠一	か	か	か	か	か	か	か	か	か	山	山	山	山							
榎 美香								歴	歴	歴							利	利	利	
大木 淳一	生	生	生	生	山	山	山	山	山	山	山	教	教	山	山	山	山	七	七	七
大久保 守					教	教				海	海	海	海							
大谷 弘幸							教	教									教			
大野 啓一	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	教	教	態	海	自	態
大野 康男																				副
大場 達之	本	本	本																	
大庭 照代	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	教	教	生	生
岡崎 浩子	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	山	山
小川 カホル (かほる)	か	か	か	か	か	か	か													
奥田 昌明	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	教	教	教	教	教	教	七	七
小久貫 隆史								城	城	城										

氏名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
奥野 淳兒	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
尾崎 煙雄	生	生	生	生	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
小田島 高之	教	教	教	教	地+山	地+山	山	山	山	七	七	教	教	企	企	山	山	山		
落合 啓二	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	か	か	か	態					
乙竹 孝文													教	教	教					
加藤 修司																		城	城	城
加藤 久佳	資	資	資	資	資	資	資	資	資	地	地	山	山	山	山	地	地	地	地	地
神野 信								城												
上守 秀明								歴	歴											
川尻 秋生	歴	歴	歴	歴																
川瀬 裕司	海	海	海	海	海	海	海	海	海	七	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
菊池 眞太郎								本	本											
菊地 則雄	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
木村 修	歴	歴	歴																	
木村 正典	教	教	教	教	教															
倉西 良一	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	か	か	か	か	か	か	か	か	生	生
栗田 隆気																動	七	七	七	七
黒住 耐二	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	資	資	資	資	資
桑原 和之	生	生	生	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か
小出 麻友美																				企
郷堀 英司													歴	歴						
後藤 亮																	企	企	山	山
小林 清隆											城									
小林 裕美												利	歴	歴	歴	歴				歴
駒井 智幸	動	動	動	動	動	動	動	動	動	資	資	資	資	資	資	動	動	動	動	動
小宮 孟	歴	歴	歴	歴	歴															
米谷 博								利	利	利	歴									
雑賀 弘之																		教	教	
齋木 健一	植	植	植	植	植	植	植	植	植	植	七	七	七	植	植	植	植	教	教	教
齋木 勝										副	副									
斉藤 明子	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	自
坂田 歩美																				教
佐久間 豊									長	長	長									
佐藤 誠														利	利	企	教			
佐山 淳史																		教	企	か
三森 俊彦						副	副	副	副	城	城	城	城							
柴山 浩恒																			利	利
地引 尚幸											教	城	城	城	城	城	城	城	城	
渋谷 さゆり												歴	歴							
島立 理子		教	教	教	教+山	教+山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	か	か
下稲葉 さやか																		動	動	動
白井 豊	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	態	態	生	生	態	態	生	教	教
新 和宏											教	教	教			自	自	海	海	海
須之部 友基	資	資	資	資	資	資	資	教												
清藤 一順							自	自	自	歴	歴	歴								
高木 博彦									歴											
高崎 芳美				歴	歴	歴	歴													
高梨 俊夫									教	歴					企	企	企			
高橋 覚									城	城	城	城	歴				利	城	城	城
高橋 直樹	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地

氏名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
高山 順子	海	海	海	海	海									七	七	七	七	七	企	企
竹内 洋子																			教	教
田代 資二	教																			
立川 浩之	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	動	動	動	動	海	海	海	海	海
立和名 明美														教	教	企	企	企	企	
立和名 啓人				教	教	教														
田中 努																			教	教
田邊 由美子			歴	歴	歴	歴					歴	歴	歴	歴	歴	歴	歴	歴	歴	歴
田村 隆						歴	歴	歴	歴	歴	歴	歴								
千原 光雄	長	長	長	長																
筑紫 敏夫	歴	歴	歴	資	資	資	資	資	資	資	自	自	自	歴						
友田 暁子	教	教	教	教	教	教	教	教	教	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資
豊川 公裕																		歴	歴	歴
豊田 佳伸															利	利	利	利	利	
直海 俊一郎	動	動	動		動	動	動	動	動	動	動	動								
中池 敏之	副	副	副	副	副															
中松 満始			教	教	教															
中村 俊彦	態	態	態	態	態	態	副	副	副	副	副	副	副	副	副	副				
中村 裕明										海	海									
鍋島 隆		教	教	教																
西内 李佳																				教
西川 博孝										利	利									
糠谷 隆								利	利	教				利	利	利	教	利	利	利
沼田 眞	長	長	長	長																
根本 悦光		教	教	教																
乃一 哲久	海	海	海	海	海	海	海	海	海	教				企	企	海	海			
萩原 恭一																		副	副	長
萩野 康則	動	動	動	動	動	動	動	動	動	教	教	環	環	生	七	七	動	動	動	動
橋本 勝雄	教																			
長谷川 雅美	生	生																		
幅 大																			企	
林 浩二	教	教	教	生	生	生	生	生	生	教	環	環	環	教	生	生	生	生	生	教
林 紀男	環	環	環	環	環	環	環	環	環	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
原 正利	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	態	態	態	態	海	海	本	態		
原田 浩	植	植	植	植	植	植	植	植	植	教	植	植	植	七	七	植	植	植	植	植
平田 和彦																			生	企
平田 和弘	生	生	生	生	生	生	生	生	生										企	企
平津 知宏																				教
吹春 俊光	植	植	植	植	植	植	植	植	植	海	植	植	植			か	か	か	植	植
福原 宣之														城	城	城				
藤崎 芳樹												副	副							
藤原 道郎	か	か	か																	
布留川 毅										海										
古木 達郎	植	植	植	植	植	植	植	植	植	七	植	植	植	植	植	植	植	植	自	生
堀江 義一	自	自	海	海	海	海	海	海	植	植	植									
丸山 啓志																			地	地
三浦 和信														歴	歴	歴	歴			
御巫 由紀	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	資	生	生	生	七	七	七	七	資
水野 大樹																		教		
宮 正樹	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	教	教	動	動	動	動	動	態	態	態
宮川 尚子																			教	生

氏名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
根本 佳織			○	○	○	○	○	○												
野萱 園子									○	○										
野邊 直子	○	○	○	○	○	○	○													
橋本 美紗子							○	○	○	○										
藤原 明子	○	○																		
保立 佐智子	○	○	○	○	○	○	○	○												
本田 尚経				○	○	○	○													
松尾 知	○	○																		
松代 倫子	○	○	○																	
宮武 志江	○	○	○	○																
安井 澄子								○	○	○	○									
山田 朋子				○																
山本 みどり										○	○									
山本 裕子	○																			
渡邊 千秋				○	○	○														
宇山 直子															○	○	●			
岡本 香織															○	○	●			
小川 徹													○	○						
柏木 真弓										○										
加瀬谷 優子																				○
勝部 章子											○	○	○					○	○	○
田中 朋子																	●	○	○	
寺部 あゆみ													○	○	○	○	○			
松田 奈緒子											○	○								
吉田 聖子																	●	○	○	○

●：年度途中で着任、または退職

(2) 体験学習指導員（分館海の博物館）

氏名	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
高梨 真由美		○	○	○	○	○	○	○												
高橋 亜紀	○	○	○	○	○	○	○													
芳賀 智恵美									○	○	○									
山岸 さゆり								○	○	○	○	○								
吉野 真江	○																			
柏木 真弓												○	○	○	○					
金子 美織														○	○	○	○	○		
鈴木 伴和													○							
原田 佳世子															○	○	○	○	○	○
渡邊 奈津子																			○	○

(3) その他（本館、分館海の博物館）

氏名	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
田中 雅子							*本	本	本	本*
西田 賢人			本*							
山田 薫			*本	本	本	本*				
古根村 美吹							海	海	海	
深川 翔				海	海	海				
渡邊 竜次										*海

本：年度の途中で着任、 本：年度の途中で退職

4 組織

館長

—副館長

—庶務部 ---庶務課

---教育普及課

---企画調整課 (平成 24 年度～)

—自然誌・歴史研究部

—地学研究科

—動物学研究科

—植物学研究科

—歴史学研究科

—資料管理研究科

—大和根分館

—大多喜城分館

—生態・環境研究部

—生態学研究科 → 生態学・環境研究科 ※1

—房総の山のフィールド・ミュージアム ※2

—環境科学研究科 ※1

—環境教育研究科

—分館海の博物館

—事務

—専門

※1 平成 24 年度に、生態学研究科と環境科学研究科が統合し、生態学・環境研究科が設置された。

※2 房総の山のフィールド・ミュージアム担当は、生態学研究科、平成 24 年度以降は生態学・環境観研究科に所属する。

30年間の中央博物館の主なできごと（年表）

年	月	できごと
平成元年(1989)	1月 1月 2月 8月 10月	千葉県立中央博物館が機関設置される 初代館長に沼田真が就任する 千葉県立中央博物館が一般公開となる 入館者 10 万人目を迎える 平成元年度 特別展「世界の貝-自然の生みだした意匠(デザイン)-」を開催する
平成2年(1990)	2月 4月 6月 6月 10月 11月	千葉市優秀建築賞を受賞する 生態園野鳥観察舎が一般公開となる 平成2年度 トピックス展「好本精昆虫コレクション展」を開催する 平成2年度 トピックス展「千葉県の海水浴史」を開催する バンクス植物図譜を基金で購入する 平成2年度 特別展「地震と房総」を開催する
平成3年(1991)	4月 7月 9月 11月 12月	第16回千葉県立博物館巡回展「二枚貝の仲間たち」を企画・開催する 平成3年度 企画展「写真でみる戦後房総の歴史」を開催する 平成3年度 特別展「バンクス植物図譜展」を開催する 皇太子殿下が来館される 平成3年度 企画展「新着地学資料展」を開催する
平成4年(1992)	3月 4月 5月 6月 8月 8月 9月 12月	文部省から指定研究機関に認定される 第17回千葉県立博物館巡回展「失われた風景-東京湾-」を企画・開催する 北マリアナ諸島の学術調査を行う 千葉県立博物館情報システムの供用を開始する 平成4年度 企画展「平将門とその時代」を開催する 入館者数 50 万人目を迎える 平成4年度 特別展「ブナ林の自然誌」を開催する リンネ関係レンスコーク・コレクションを基金で購入する
平成5年(1993)	2月 4月 6月 7月 10月	平成4年度 企画展「偏光顕微鏡でみる岩石の世界」を開催する 組織を2研究部に改組する 平成5年度 企画展「房総の滝」を開催する 平成5年度 企画展「クワガタムシの世界」を開催する 平成5年度 特別展「香取の海-その歴史と文化-」を開催する
平成6年(1994)	2月 6月 7月 8月 10月 11月 12月	平成5年度 企画展「コケのくらし-極限の環境に生きる緑の世界-」を開催する 平成6年度 企画展「房総史研究の先覚者-資料に見る千葉県の歴史-」を開催する 平成6年度 企画展「不思議なキノコ」を開催する 台湾での学術調査を実施する 平成6年度 特別展「リンネと博物学-自然誌科学の源流-」を開催する 天皇后両陛下が来館される リンネ「自然の体系」初版本を基金で購入する
平成7年(1995)	5月 7月 7月 10月	入館者 100 万人目を迎える 生態園全域が一般公開となる 平成7年度 企画展「養老川流域の自然」を開催する 平成7年度 特別展「伊豆・小笠原・マリアナ島弧の自然-房総の南に連なる島々-」を開催する
平成8年(1996)	2月 4月 7月 7月 10月 12月	平成7年度 企画展「千葉のケモノたち」を開催する 第4回千葉県立美術館・博物館合同企画展「東京湾・海苔の文化誌-のりを喰う-」を企画・開催する カムチャッカ半島での学術調査を実施する 平成8年度 企画展「経塚と経筒-未来への祈り-」を開催する 平成8年度 特別展「恐竜の足跡と謎の先カンブリア生物」を開催する 平成8年度 企画展「現代の動物画・植物画」を開催する
平成9年(1997)	7月 7月 10月	カムチャッカ半島・北千島での学術調査を実施する 平成9年度 企画展「植物画の技法-自然を観る-」を開催する 平成9年度 特別展「南の森の不思議な生きもの-照葉樹林の生態学-」を開催する
平成10年(1998)	2月 2月 4月 5月 10月	千葉県立博物館のウェブページを公開し、インターネットで情報提供を開始する 平成9年度 企画展「地層は語る-古東京湾の波・潮・流れ-」を開催する 第2代館長に千原光雄が、初代館長沼田真は名誉館長に就任する 入館者 150 万人目を迎える 平成10年度 特別展「職の風景-職人尽絵とその周辺-」を開催する

年	月	できごと
平成 11 年(1999)	2月 2月 3月 4月 7月 10月	開館 10 周年を迎える 平成 10 年度 企画展「土の中の住人-土壌動物-」を開催する 勝浦市に分館海の博物館が機関設置され一般公開される 平成 11 年度 企画展「博物館 10 年のあゆみ展」を開催する 平成 11 年度 特別展「カエルのきもち」を開催する 平成 11 年度 企画展「収蔵資料展-お見せします 10 年ぶん-」を開催する
平成 12 年(2000)	2月 4月 7月 9月 11月	平成 11 年度 企画展「カニの自然誌」を開催する 平成 12 年度 企画展「房総とあなたの再発見-写真が語るもの-」を開催する 平成 12 年度 企画展「植物画の世界-園芸植物とプラントハンター-」を開催する 平成 12 年度 特別展「知られざる極東ロシアの自然」を開催する 移動博物館を試行実施する
平成 13 年(2001)	3月 4月 6月 7月 10月 12月	平成 12 年度 企画展「縄文人の食生活」を開催する 平成 13 年度 企画展「房総の植物を調べる-博物館学芸員のしごと-」を開催する 平成 13 年度 特別展「ヒマラヤ-人・自然・文化-」を開催する 入館者 200 万人目を迎える 平成 13 年度 企画展「よみがえる恐竜-古生物復元画の世界-」を開催する 沼田名誉館長が逝去する
平成 14 年(2002)	3月 4月 6月 7月	平成 13 年度 企画展「僕らのつくった森-生態園をさぐる-」を開催する 平成 14 年度 企画展「深海魚の不思議」を開催する 資料データベースのインターネット公開を開始する 平成 14 年度 特別展「恐竜時代の生き物たち-桑島化石壁のタイムトンネル-」を開催する
平成 15 年(2003)	2月 3月 4月 4月 6月 9月 12月	平成 14 年度 企画展「驚異の地衣類」を開催する 移動博物館「どこでも企画展『房総の山のケモノたち』」を開催する 第 3 代館長に中村哲が就任する 房総の山のフィールド・ミュージアム・プロジェクトを開始する 平成 15 年度 企画展「中央博展示の広場」を開催する 平成 15 年度 特別展「野の花今昔-房総の原風景とそこに生きた花・鳥・魚たち-」を開催する 平成 15 年度 企画展「古文書が語る江戸時代の東京湾」を開催する
平成 16 年(2004)	3月 4月 7月 10月 11月 11月	平成 15 年度 テーマ展示「持ち込まれたケモノたち-外来動物がおびやかす地域の自然-」を開催する 本館入場が有料となる 平成 16 年度 企画展「あっ！ハチがいる！」を開催する 中期 5 年計画を策定する 平成 16 年度 テーマ展示「語る・観る、房総の石仏」を開催する 図書資料のコピーサービスを開始する
平成 17 年(2005)	3月 4月 7月 10月	平成 16 年度 テーマ展示「春だ！野に出よう-自然観察入門-」を開催する 年間入場券（パスポート）を導入する 平成 17 年度 企画展「ワクワク体験 2005 旅する地球の水」を開催する 平成 17 年度 テーマ展示「きのこワンダーランド」を開催する
平成 18 年(2006)	3月 4月 4月 7月 10月 10月 11月	平成 17 年度 季節展示「結晶とガラス」を開催する 大利根博物館と総南博物館が、大利根分館と大多喜城分館となる 重点研究事業を開始する。3 課題を 3 年計画で実施する 平成 18 年度 企画展「驚異の深海生物-未知の“深”世界へ-」を開催する 平成 18 年度 季節展示「百年前をのぞいてみると？」を開催する メールマガジン「中央博メール」の配信を開始する 平成 18 年度 季節展示「おもしろ研究紹介」を開催する
平成 19 年(2007)	1月 3月 3月 4月 4月 6月 10月	平成 18 年度 季節展示「干葉の干潟」を開催する 入館者 300 万人目を迎える 平成 18 年度 春の展示「山の科学画」を開催する 第 4 代館長に佐久間豊が就任する 読売新聞で「ちば水辺の生命」の連載が開始される（全 185 回・2011 年 4 月終了） 平成 19 年度 企画展「化石が語る熱帯の海-1600 万年前の日本-」を開催する 平成 19 年度 秋の展示「食虫植物の世界-虫を食べる植物たち-」を開催する
平成 20 年(2008)	1月 3月 4月 4月 7月 11月	平成 19 年度 冬の展示「房総発掘ものがたり」を開催する 平成 19 年度 春の展示「砂浜の野鳥たち-九十九里の景観とともに-」を開催する 本館の展示解説員を体験交流員に名称変更する 本館内に生物多様性センター（自然保護課）が設置される 平成 20 年度 企画展「大昆虫展」を開催する 平成 20 年度 企画展「発掘された日本列島 2008」を開催する

年	月	できごと
平成 21 年 (2009)	1月 2月 3月 7月 9月	20周年記念展示「ヒマラヤの神秘 ブータンの自然と人々の暮らし」を開催する 開館 20 周年を迎える 平成 20 年度 春の展示「クモ・蜘蛛・くも-8本足の糸つむぎ職人-」を開催する 平成 21 年度 企画展「生物多様性 1 : 生命のにぎわいとつながり」を開催する 平成 21 年度 秋の展示「生物多様性 2 : 人と自然のかかわり『縄文の躍動-海と生きた人々の文化-』」を開催する
平成 22 年 (2010)	3月 4月 7月 10月	平成 21 年度 春の展示「雲南の地衣類」を開催する 第 5 代館長に嘉村茂邦が就任する 平成 22 年度 企画展「海藻、35 億年の旅人-それは、生命をつたえるものがたり-」を開催する 平成 22 年度 秋の展示「きらびやかな世界の昆虫たち-多様な形と色彩-」を開催する
平成 23 年 (2011)	3月 3月 4月 5月 7月 10月 10月	平成 22 年度 春の展示「千葉県野鳥図鑑-水鳥編-」を開催する 東北地方太平洋沖地震が発生する (11 日) 第 6 代館長に上野純司が就任する 朝日新聞で「チーバクんの Q 中央博を訪ねる」の連載が開始される (全 44 回・2015 年 8 月終了) 平成 23 年度 企画展「平羽三山と山伏-はるかなる神々の山をめざして-」を開催する 平成 23 年度 秋の展示「砂のふしぎ」を開催する 東日本大震災で被災した博物館所蔵資料のレスキュー事業に参加する
平成 24 年 (2012)	3月 4月 4月 6月 7月 10月 10月	平成 23 年度 春の展示「芽ばえ」を開催する 千葉県立博物館情報システムを更新し、ウェブページをリニューアルする (CMS の導入) 庶務部に企画調整課を新設し、生態・環境研究部を 2 科に改変する 入館者 400 万人目を迎える 平成 24 年度 企画展「シカとカモシカ-日本の野生を生きる-」を開催する 平成 24 年度 秋の展示「おもしろ研究紹介」を開催する 平成 24 年度 特別展「ティラノサウルス-肉食恐竜の世界-」を開催する
平成 25 年 (2013)	3月 3月 4月 10月	平成 24 年度 春の展示「ナッツ&ベリー」を開催する ツイッターによる情報発信を開始する 第 7 代館長に堀田弘文が就任する 平成 25 年度 企画展「音の風景-うつりゆく自然と環境を未来に伝える-」を開催する
平成 26 年 (2014)	3月 3月 4月 7月 11月 11月	平成 25 年度 春の展示「水辺の記憶-写真家 林辰雄のまなざし-」を開催する 千葉県立中央博物館友の会が解散する 第 8 代館長に川戸功一が就任する 平成 26 年度 企画展「図鑑大好き! -ダーウィンからはじまる 100 の図鑑の話-」を開催する 平成 26 年度 秋の展示「どんぐりの世界」を開催する 「第 1 回自然誌フェスタ千葉」を開催する
平成 27 年 (2015)	3月 7月 10月	平成 26 年度 春の展示「世界の遺跡から出土した貝-現生標本から見る色や形・利用法-」を開催する 平成 27 年度 企画展「妖怪と出会う夏 in Chiba 2015」を開催する 平成 27 年度 秋の展示「水草 -ふしぎがいっぱい、水辺のいろどり-」を開催する
平成 28 年 (2016)	3月 4月 7月 10月	平成 27 年度 春の展示「石材が語る火山がつくった日本列島」を開催する 第 9 代館長に中村祥一が就任する 平成 28 年度 企画展「驚異の深海生物-新たな“深”世界へ-」を開催する 平成 28 年度 秋の展示「屏風絵の世界-職人尽絵を中心に-」を開催する
平成 29 年 (2017)	3月 4月 7月 9月	平成 28 年度 春の展示「五七五で自然を切り取る-生態園を子どもの目で詠むと-」を開催する 第 10 代館長に鎌田操が就任する 平成 29 年度 企画展「きのこワンダーランド I 期」を開催する 平成 29 年度 企画展「きのこワンダーランド II 期」を開催する
平成 30 年 (2018)	3月 3月 4月 4月 7月 10月 11月	平成 29 年度 春の展示「ところ変われば備えも変わる あなたの街と自然災害」を開催する 千葉県立博物館情報システムを更新し、資料データベースの新システムの運用を開始する 第 11 代館長に萩原恭一が就任する 千葉県立博物館のウェブページをリニューアルする (スマートフォン対応) 平成 30 年度 特別展「恐竜ミュージアム in ちば」を開催する 平成 30 年度 秋の展示「房総丘陵はすごい調べてびっくり、新発見の数々-」を開催する 平成 30 年度千葉県博図公連携事業巡回展「写真でつづる千葉県と鉄道」を企画・巡回する
平成 31 年 (2019)	2月	開館 30 周年を迎える